

平成29年 7月 10日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施致しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名:「未来へのドア」-持続可能な FURUSATO 創生プロジェクト「FURUSATO の先輩にインタビューしよう」

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名: 阿部真理子
3. 依頼元/主催等団体名: 山形県立山形中央高等学校
4. 実施日時: 平成29年6月28日(水) 13時00分～ 15時15分
5. 実施場所: 山形県立山形中央高等学校 山形市鉄砲町二丁目10-7 3
6. 参加者数: 対象者2年生244名中、30人が弊団体ブースを訪問。
7. 実施内容:

山形中央高校では、二年生の総合的な学習の時間に、「未来へのドア」-持続可能な FURUSATO 創生プロジェクト-と題し、地域から24名の講師を呼び、探求型学習を行った。弊団体はブースを出し、3グループ30人の生徒がブースを訪れた。

最初、IVYの事業、地方における国際協力活動のあり方や、弊団体のODAを活用した海外における事業(N連、JPF)、ユースの活動、NGO相談員制度について説明したあと、生徒からのインタビューがありそれに答えるという形で進められた。生徒からは、

- ①なぜ国際協力という仕事に興味を持ったか
- ②なぜこの仕事を続けているのか
- ③支援地域はどうやって決めるのか
- ④今後、新しい事業を始めようと思っているか
- ⑤国際協力という仕事に必要なことは何か
- ⑥現地に行ったら、通訳はいるのか

⑦現地で出会った人とどのような関係を築けるのか

⑧ユースの活動資金、渡航費はどうしているのか

などたくさんの質問が寄せられた。

8. 所感：

ブースを出していたのは地元の企業や福祉団体などが多く、弊団体のブースは異色の存在だったが、国際協力に関心のある生徒が立ち寄ってくれた。自分の将来の選択肢の一つとしての質問もあり、また国際協力活動になぜ従事しているのか、なぜ国際協力が必要なのか、考えさせられる問いかけもあった。10人という少人数でのやり取りだったので、1グループあたりの時間は短かったが内容のあるやり取りとなった。

以上



右上：年次報告書を見せて、弊団体の活動を説明

左上：他のブースの様子

右下：シリア難民のキャンプでの冬の様子を見せ、越冬支援の必要性について説明

平成29年6月20日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン
代表理事 田口 京子

NGO相談員出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 企画名：国士舘大学政治行政学科の学生に対する講演（形態：講演）
2. 実施者：特定非営利活動法人アイキャン 吉田文
3. 日時：平成29年6月9日（金） 16時25分～17時55分
4. 場所：国士舘大学 世田谷キャンパス 34号館B302教室
（住所：東京都世田谷区世田谷4-28-1）
5. 参加者：国士舘大学政治行政学科2・3年生 約150名（1・2年生聴講含む）
6. 実施報告：

国士舘大学政経学部政治行政学科の「国際機構論 総論」の講義において、「国際社会におけるNGOの役割と活動」というテーマで講演を行った。当団体が活動を行う、フィリピン、イエメン、ジブチを例に紛争地や難民キャンプに暮らす人々がおかれた現状や課題、それらに対するNGOの役割や活動の意義、成果について写真や具体的な事例を交えて紹介した。当日は受講者の他、聴講生も参加しており、参加者からは「私には何ができるのかを考えさせられた。小さなことでもできることを積み重ねれば大きな力になって、社会を少しずつ変えられるのではないかと思った。」「学校の先生になりたいと思っているが、国際協力の業界で働くことの魅力も感じ、将来の選択肢として考えたいと思った。」などの感想をいただいた。今回の出張講演を通じ、学生の今後のキャリア形成における国際協力分野での視野を広げ、国際社会への貢献に対する意識を喚起、醸成することができたと感じる。

7. 写真



以上

2017 年 7 月 10 日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン
代表理事 田口 京子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

6 月 27 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名：JICA 中部国際協力推進員会議への出張サービス

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：（特活）名古屋 NGO センター 田口裕晃

（特活）アイキャン 中村由実子

3. 催しの概況：

- ・実施日：2017 年 6 月 30 日（金）10 時 30 分～11 時 30 分
- ・場 所：JICA 中部（愛知県名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-7）
- ・参加者：JICA 中部国際協力推進員 6 名（愛知、名古屋、岐阜、三重、浜松、静岡デスク）
- ・概 要：JICA 中部に所属する国際協力推進員が定例で行う推進員会議にて、NGO 相談員制度の具体的な活用事例を紹介した上で、今後の更なる連携についての意見交換を行った。

4. 実施内容：

主な相談内容は以下の通り。

- ・過去に相談員が JICA と連携して行ったイベント等にはどのようなものがあるか。
- ・講演等の出張サービスを相談員に依頼する場合の条件があれば教えてほしい。
- ・推進員のところにきた案件を相談員に回す場合、どのような流れで行えばよいか。推進員を介さず直接問合せをしてもらって問題ないか。
- ・中部の相談員として、どういうところを強化したいのか、希望があれば教えてほしい。
- ・静岡、浜松、三重では、国際協力関連のイベントというと、学生が中心となって行うフェアトレードの活動があるが、そういうものにも相談員として来てもらえるのか。
- ・静岡では、活動できる場を探している人もいるが、団体が少ない。名古屋の相談員では遠いということも懸念されるが、場合によっては関東の相談員に対応してもらうことも可能か。
- ・物品の寄付について多くの相談が寄せられるが、どのように対応すればよいか。物品寄付を受け入れてくれる先があれば紹介してほしい。

5. 所感および効果：

<名古屋 NGO センター>

JICA 推進員、NGO 相談員双方にとって、メールや電話ではなく顔の見える関係性構築という点

でも、有益な機会となった。実際にどのように出張サービスを依頼すればよいか、また、どんな依頼であれば対応可能か等の細かな点について理解を深めることができた。中部ブロック 2 団体それぞれが得意とする分野(名古屋 NGO センターは「ボランティア」や「NGO 活動全般」など、アイキャンは「NGO のプロジェクト実施」「フェアトレード」など)についても共有することができた。また、愛知デスク、名古屋デスク、浜松デスクが統廃合された際の対応についても確認し、さらなる連携の展開が期待できる結果となった。

<アイキャン>

JICA 中部推進員会議への参加は 2 年振りとなり、今回初めての参加する推進員には、NGO 相談員制度の概要や活用事例を知ってもらうことができ、以前参加した推進員においても、最近の 2 団体の出張事例などを紹介したことで、活発な意見交換に繋げることができた。6 名の推進員は、連携を図りたいというこちらの意向に協力的で、「相談員として強化したいところを教えてもらえれば、それを踏まえて考えることができると思う」と言ってくれた。そのため、両団体が事務所を置く愛知県は、こちらから働きかけなくても相談が来るほど基盤が築けているが、その他の県はまだ NGO 活動そのものが浸透していない現状を伝え、後半では、静岡、浜松、岐阜、三重の各推進員から、今後相談員として関わることができそうな活動や組織を紹介していただいたり、実際に依頼する場合の方法について聞かれたりするなど、具体的な話に発展した。特に、まだ今年度出張の予定がない三重県に関して、JICA も毎年ブースを出している三重大学のイベントに、相談員も出展してはどうかという提案を頂き、北陸を除く中部ブロックにおいては全県出張達成の見込みが立ったことも収穫といえる。今後も、名古屋 NGO センターとともに、各推進員と連携しながら、中部ブロックの NGO 活動の促進に努めたい。



写真左：相談員制度を説明する様子。奥中央が名古屋 NGO センター田口、同左がアイキャン中村。
写真右：意見交換の様子。

以上

2017 年 7 月 8 日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

6 月 14 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 「第 5 回ぼらマッチ！なごや」における相談対応サービス

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：

（特活）名古屋 NGO センター 田口裕晃

（特活）アイキャン 中村由実子

3. 催しの概況：

・実施日：2017 年 6 月 24 日（土）11 時 15 分～16 時 00 分

・場 所：愛知学院大学 名城公園キャンパス アガルスタワー10 階

・来場者：約 400 人

・概 要：ボランティアを求める団体とボランティア希望者のマッチングイベント「第 5 回ぼらマッチ！なごや」に NPO/NGO による活動紹介のためのブースが設置され、来場者、他の出展団体からの相談に対応した。

4. 実施内容： ブース訪問者：30 人 相談対応件数：合計 47 件

●主な相談内容は以下の通り

- ・名古屋で国際協力ボランティアに関わりたいがどのようなボランティアがあるのか
- ・自団体でインターンしてくれる学生を探しているが、どのように広報をしたらいいのか
- ・社会福祉士の資格を勉強しているが国際協力の分野でどのように活かすことができるか
- ・自団体でイベントの企画をしている。イベントの実施する上での注意点を教えて欲しい。
- ・名古屋市にある大学生向けのポータルサイトを作成した。NGO にも情報を提供してほしいと考えているがどのように呼びかければいいのか。
- ・ボランティアをしたいと思っているが、仕事をしながら休みの日にできる、自分に合ったものをやりたい。どのようなボランティアがあり、どのような人が参加しているのか。
- ・大学でフェアトレードのサークルを運営しているが、メンバーによって参加率にばらつきがあり、運営に悩んでいる。皆により積極的に参加してもらうにはどうしたらよいか。
- ・英語を使うボランティアを探しているが、どういうものがあるか。

5. 所感および効果：

<名古屋 NGO センター>

本イベントは昨年同様、名古屋市と名古屋市内に拠点を置く NGO、国際交流協会、大学、社会福祉協議会等が参加して企画されたものであった。参加者の多くはボランティアを経験したことのない人ばかりで、国際協力に関心のある人も非常に多く来場された。他の団体からも国際協力ボランティアの相談があれば、NGO 相談員へまわしていただくという連携もできており、地域の団体とも連携して、相談業務を実施することができた。今後も中部地域で活動する NGO/NPO や行政との連携を進めて相談業務にあたっていきたい。

<アイキャン>

相談者は、学生から会社員、主婦、退職者等、幅広い層であったが、内容としては、ボランティアをしたいがどのようなものがあるか、といった質問・相談が多く、どの層においても、学校や仕事、家庭などとの兼ね合いや、自分の興味・関心、語学力などと照らし合わせて、自分に合ったものを探している方が多いという印象であった。また、他の出展団体からの相談もいくつかあり、団体の運営方法に関する相談や、自主企画イベント開催のポイント、広報の仕方などについての質問にも対応した。名古屋 NGO センターと 2 団体合同で出展したことにより、相談者の内容によってはどちらかに引き継いだり両団体でそれぞれの知見から回答したりと、常に連携して対応することができ、相談者にとっても偏りのない回答をすることができたと感じている。今後も、可能な限り連携して相談対応にあたりたい。



名古屋 NGO センター



アイキャン

以上

平成 29 年 6 月 20 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企 画 名 :「第16回NGOスタディツアー合同説明会」
※出張形態:相談対応ブース
2. 出 張 者 :坂西卓郎((公財)PHD協会)
谷川詩織((特活)関西 NGO 協議会)
3. 実 施 日 :2017年6月17日(土)13時00分～17時00分
4. 場 所 :龍谷大学大阪梅田キャンパス
(大阪市北区梅田 2-2-2 ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー14階)
5. 対象者 :一般、学生 73名

6. 実施報告:

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター、株式会社マイチケット、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会が主催する NGO 合同(14 団体)によるスタディツアー説明会に NGO 相談員ブースを出展し、関西 NGO 協議会、PHD 協会の2団体で相談対応を行った。プログラムはスタディツアーに関するミニセミナー、各ブースでの個別相談、プレゼント抽選会であった。

関西を中心とした 11 団体が集まり、また準備段階から各参加団体が協力して広報をしたため学生を中心に多くの参加者が集った。相談内容はスタディツアー関連以外にも学生の関心事である就職相談も多く寄せられた。内容は NGO に就職するためのスキルや経験に加え、親を納得させるための NGO の社会的信用などの話であった。また各相談者には旅レジの情報提供などを積極的に行った。最終的に坂西は12人、19件の相談に対応し、谷川が10人、19件の対応、総計22人、38件の相談対応を行った。

全体的な所感としては、JR 大阪駅近くの立地で、かつ龍谷大学が共催ということもあり、学生の参加人数が多かっただけでなく、熱意や意識なども高い人が多かったように感じた。そういった場で NGO 相談員ブースを出展できたことは一定程度的アピールになったと思われる。また JICA や青年海外協力隊の名前は知られているが、外務省が国際協力を実施していることは知らない学生が多く、そういった面でも PR になり有意義だったと思われる。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を4枚添付

①第16回NGOスタディツアー合同説明会全体の様子



②第16回NGOスタディツアー合同説明会の相談員ブースの様子



③第16回NGOスタディツアー合同説明会での相談員ブースの様子



④第16回NGOスタディツアー合同説明会での相談員ブースの様子



平成 29 年 6 月 20 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「羽曳野市立西浦小学校での国際協力についての講演」

※出張形態:相談対応ブース

2. 出張者:坂西卓郎((公財)PHD協会)

3. 実施日:2017年6月19日(月)13時45分～14時45分

4. 場所:羽曳野市立西浦小学校
(大阪府羽曳野市西浦1050)

5. 対象者 : 5年生86名、6年生77名 教諭5名 計168名

6. 実施報告:

西浦小学校にて総合の時間に5年生3クラス、6年生3クラス計、163名に対して国際協力の講演を行った。小学5、6年生向けにわかりやすい内容というリクエストを受け、内容としては「NGO とは?」「世界にいろんなところがある」という点を掘り下げる内容で実施した。導入として「子ども達が一分間に12名亡くなっている」という統計をもとにワークショップを実施して、子ども達と共に考える時間を持った。続いて子ども達にも接点のある学校をテーマにして、ミャンマー、インドネシア、ネパールの学校の事例などを紹介した。また最後には当会のインドネシアの研修生からも地域の小学校の事例を紹介させていただいた。

途中、子ども達に質問を投げかける形で対話の時間を持ったが、子ども達の反応はよく、多くのコメントが寄せられた。ただ子どもが一分間に12名も亡くなっているという事実にとどり着けた子ども達はおらず、一様に驚いている様子であった。短い時間ではあったが、世界の現実を知るきっかけになってくれれば幸いである。

全体的な所感としては上記のように子ども達の反応もよく、当初の国際協力をわかりやすく伝えるという部分はある程度達成できたと思われる。ただ当日は気温も高く、会場が体育館だったこともあり、子ども達は暑さで集中力を欠く場面もあった。そういったシーンでは質問やインドネシアの踊りなどを紹介しながら、注意を惹きつけるように心掛けた。先生方からは「2学期に NGO について学ぶので、よい機会になった」、「わかりやすかった」との高評価をいただいた。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を2枚添付



①羽曳野市立西浦小学校での国際協力についての講演全体の様子

②羽曳野市立西浦小学校での国際協力についての講演にて NGO 相談員制度の説明をしている様子



NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：大阪大学外国語学部での国際協力に関する講演
テーマ：「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」
2. 実施者：谷川詩織 ／ (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 6 月 20 日（火曜日）
4. 場所：大阪大学外国語学部 箕面キャンパス A 棟 501
(〒562-8558 大阪府箕面市栗生間谷東 8-1-1)
5. 参加者：「多文化サポート概論 I」受講大学生 5 名 教員 1 名
6. 実施報告：

<内容>

「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」をテーマとし、とりわけ地域から国際協力を推進するにあたって、世界的な課題と日本の生活とのつながり、世界課題と社会問題解決に向け活動する加盟団体や当会の活動事例とその成果を紹介した。

特に、SDGs の目標や策定の背景に関する説明と併せ、関西地域の NGO の活動内容を紹介し、グローバル課題や国際協力を食べ物や経済活動を通じて自身の生活に引き寄せて考える機会、関心を醸成するとともに、身近なところから国際協力に参画するための方法や情報も内容に盛り込んだ。後半では、地域から若い世代を巻き込み国際協力を推進する啓発事業の一例として、『ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～高校生のための国際交流・国際協力 EXPO～』の開催意義と成果についても紹介した。

<所感>

多文化共生サポートという講義の受講者であることから、学生は皆まじめに耳を傾けた。また、2030 年の SDGs 達成にむけて、現在の高校生・大学生は主要なアクターであること、また、我々は食べ物や製品の原材料の輸入、経済活動を通じて世界の様々な課題とつながっており、国際協力を推進するためには人々の意識の底上げ、NGO と様々なセクターとの連携や協働の促進が欠かせないというメッセージを伝えた。学生からは、「国際課題への対策は政治家や官僚などが関わるもので自分とは遠いものと感じていたが、様々な形で生活につながっていると知り、遠い問題ではないと感じた。自分でも生活の

些細なところからできることがあると知った」という感想をいただき、こちらのメッセージが十分に伝わったことがうかがえた。国際問題と身近な物との繋がりを例にとつての紹介や、加盟団体や当会の活動を具体的に紹介し、NGO や国際協力に関心を持ってもらえるよう工夫した点が、学生の理解の促進、身近な問題として国際協力を考える一つの契機になったようである。

当初の予定より参加者が少なかったのが残念であるが、その分熱心に講義を聞き、和やかに質疑応答の時間を設けることができた。学生からは、「小学生を対象にしたボランティアをしている。小学生が参加できる国際協力活動はないか」「問題を知らない人に興味を持ってもらうために、伝える際に意識していることを教えてほしい」など、次の行動を具体的に意識した質問もあり、国際協力の裾野拡大に貢献できたと考えている。

7. 別添（写真）



講義中の撮影ができなかったため、講義後に相談員が撮影した写真を添付。

以上